

1 派遣期日 平成 23 年 11 月 18 日 (金)

2 研修先 学校名 東京都港区立赤坂中学校
所在地 東京都港区赤坂 9-2-3
<http://www2.rosenet.ne.jp/~akasaka-j/>

3 研修内容
北原延晃教諭の授業見学

(1) ① 1 年生 (20 名) 少人数北原コース

1 あいさつ

2 英語の歌 (Eternal Flame)

- ・生徒は元気よく歌っていた。重要な表現は空欄になっており確認していた。
- ・発音に注意して歌っている。

3 単語の確認 (フラッシュカード)

- ・重要語句, フォニックスを確認しながら発音。様々なカードの提示をしており, 生徒が飽きないよう工夫していた。
- ・空中に指書きさせ, 発音と同時に書く事への指導も行っていた。

4 ワークの答え合わせ

- ・ワークを宿題にしていた。答えを含む文を生徒に音読させ, 発音が正しければ全員で復唱し, 正しくない場合は次々と他の生徒を指名し, 発音させていた。
- ・ワークに掲載されている教科書に似た文を音読させることで, 発音の確認を行っていた。

5 教科書音読

- ・ALT の後に続いて→先生のジェスチャーを見て英語で本文を言う→全員でジェスチャーをつけて音読→教科書に書いた星の確認 (星一つにつき音読 5 回。最低 5 つは書けるように指導)

6 ペア活動

- ・会話文にジェスチャーをつけて音読→先生に発表。合格しない生徒は放課後に残って発表していた。それでも合格できない生徒は次の朝来ることになった。

(2) ② 1 年生 (20 名) 少人数北原コース

1 あいさつ

2 英語の歌 (Eternal Flame)

- ・生徒は元気よく歌っていた。重要な表現は空欄になっており確認していた。
- ・発音に注意して歌っている。

3 テスト前の重要語句, 表現の確認。

- ・チームを作り, JTE が教科書に載っているある表現について, 口頭 (英語) で説明をする。それを聞き取り, その表現が載っているページを当てるゲーム。英文を聞き取り, その内容を理解する力を必要とする活動であった。

(3) 3 年生 (16 名) 少人数北原コース

1 あいさつ

2 英語の歌 (That's What Friends Sre For)

3 リーディング

① じゃれマガ 2011 (WPM 平均 172 最高 234) 黙読→答え合わせ→音読→辞書指導

② 読みトレ (2 回分) 本文について英問英答

4 ピクチャーカードを用いて絵の内容について、できるだけ多く書く。(picture describing)

- ・およそ1分毎にカードを変えていた。絵の内容について説明させることにより、書く力をつける。また、英検2次試験対策にもなっている。

5 単語の確認(フラッシュカード)

- ・一年生の活動と同様に行った。重要な語句は辞書を使って確認させていた。

6 ワークの答え合わせ

- ・1年生の活動と同様に行っていた。

7 リーディング③

- ・黙読→答え合わせ→音読(ALT)

4 授業の様子

- ・生徒が授業の流れを把握しているため、短時間に様々な活動を行っていた。
- ・発音指導を厳しく行っており、生徒の発音のレベルは高い。
- ・重要語句や表現は必ず辞書を引かせ、辞書指導を何度も行っていた。辞書指導を徹底することで、表現の使い方や、関連語句の確認などを定着させる意図があった。
- ・単語や文法の導入では、既習事項を確認させながら新しい表現を導入していた。1年生の内容から確認させることで知識の定着を図っていた。
- ・音読を1ページにつき最低25回させており、発音指導を徹底して行っていた。
- ・特別な授業ではなかったが、生徒の集中力は高く、3年生の授業では、1時間の授業の中で3つの長文読解と単語、文法の導入、ライティング活動まで行っており、生徒の学力が高いレベルまで達していた。

5 感想

まず驚かせられたことは、授業の流れが非常に早いですが、生徒は完全にその流れを把握しているため、スムーズに次々の活動を行っていたことだ。日々の計画的で継続した指導の結果であると感じた。また、発音指導を徹底して行っていたことも参考になった。正しく発音し、音読できない表現は身につかないという信念のもと指導をしていることであった。授業の途中でも、発音が難しい表現が出てきた場合には、授業を止め、1人1人の口を確認するなどの徹底ぶりであった。そのため、生徒の発音はとてもきれいで、生徒達は自分の発音に自信をもっていた。英検準2級の取得率も三年生で20%を超えており、生徒のレベルが高い裏では、このような指導の繰り返しがあるのだと痛感した。

北原先生との授業反省で印象的だった言葉は、「厳しい指導とは丁寧な指導。やさしい指導とは甘やかした指導。」であった。生徒ができるまでは、放課後や翌日の早朝を使い、発音や内容理解の確認を何度も行うなど、徹底した指導が生徒の能力を高いレベルまで引き上げているのだと感じた。

何気ない授業の中にも、信念をもった徹底した指導と、変化のある繰り返しが生徒の力をつけるのだと感じた。今後自分が授業をする上でも、生徒のどの力をつけ、そのためにはどのような活動をしなければならないのかを分析し、それを繰り返し指導しなければならないと感じた。